

教科	工業	科目名	インテリア実習	単位数	4
学科	インテリア科	学年	3 学年	履修区分	必修
使用教科書	インテリアエレメント生産（コロナ社）				
副教材など					

1. 科目の目的

「インテリア計画」「インテリア装備」「インテリアエレメント生産」「デザイン技術」「デザイン史」等の科目に関連させ、要求条件にあった、性能の高い、快適なインテリアを創造するための基礎的・基本的な技術を、実際の作業を通して総合的に習得し、ものづくりの能力と技術および、態度を身に着けた実践的な技術者を育成することを目的とします。

2. 授業の内容と進め方

2・3年共に3班に別れ、12名～14名のグループで学習します。「木材工芸」「パースペクティブ」「CAD」の3テーマをローテーションで進めます。「木材工芸」は2年次で基礎的な技術で製作できる小物家具を製作し、3年次でオリジナル家具製作へと進み、製作工程に応じた加工技術や、木工機械の操作を学習します。「パースペクティブ」は二年次に1 消点パース・2 消点パースの基礎を学習し、それぞれのインテリアパースを作図して着彩します。3年次は住空間をコーディネートしパースを含むプレゼンテーションボードを仕上げます。「CAD」は2年次にJW-CADソフトによる家具3面図やインテリア平面図・立面図の表現技術を学習し、3年次では自ら設計した住宅のインテリアデザインをプレゼンテーションできる表現技術へと進みます。

3. 学習する上での留意点

他の科目との関連を重視して授業を進めます。「木材工芸」における刃物や木工機械の使用については、特に安全教育・環境整備に留意します。

4. 課題等について

各工程ごとにレポートを提出します。家具作品、パース作品等の製作において授業時間で不足する分は課題とし、各自の自主学習によって完成させ期日までに提出することとします。その際、実習室の使用を認め、刃物や機械の使用については職員が付いて指導します。

欠席者については、放課後等を利用し欠席した実習項目について補講をします。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	インテリアの表現技法および、作品製作等ものづくりに関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的、実践的な態度を身につけているかを評価します。
思考・判断・表現	インテリアデザインに関する基礎的な知識をもとに、実際にインテリアデザインを提案し、家具等の作品を製作するにあたって直面する諸問題について、その解決を目指して自ら思考を深め、判断できる力と創意工夫する能力を身につけているかを評価します。
技能	インテリアデザインに関する基礎的・基本的な技術を身につけ、安全や環境に配慮し、合理的な手順や工程を計画し、適切な加工や処理を行う技能を身につけたかを評価します。
知識・理解	インテリアデザインに関する基礎的・基本的な知識を身につけ、人が快適に生活するインテリアの計画・設計を的確に表現し、実現させようとする目的を理解しているかを評価します。

6. 評価の方法

評価の観点に基づき、出席状況、レポートおよび、作品の提出状況・完成度および、自己評価を加味して総合的に判断し、評価します。

《指導計画》 科目名 インテリア実習

3 学年

4 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	実習オリエンテーション	① 各実習の目的, 方法などについて, あらかじめ十分理解する。 ② 実習に安全な服装, 整理整頓と危険防止に留意する。 ③ 積極的, 自主的に行動し, 共同作業はお互いによく協力するよう心がける ④ レポートおよび, 作品の提出は, 期限を厳守する。	行動観察 レポート
	5	第1実習テーマ 「木材工芸」	インテリアエレメント生産で学習したインテリアデザインの基礎知識を基に, 機能性, 安全性, 耐久性, 経済性, 審美性を備えた家具をデザイン・設計し, 合理的な加工工程・塗装工程表の作成法を学び, 安全で適切な加工技術および, 塗装技術を身につけ, 図面どおりの家具を製作する技術を習得する。	行動観察 レポート 自己評価 作品完成度
	6			
二 学 期	7	第2実習テーマ 「パースペクティブ」	インテリア計画, インテリアエレメント生産, インテリア装備等で学習するインテリアデザインの基本的知識を基に, 自ら設定した生活テーマによる要求条件を満たすインテリアデザインを提案し, パースペクティブにより表現する技術を習得する。	行動観察 レポート 自己評価 作品完成度
	9			
	10			
三 学 期	11	第3実習テーマ 「CAD」	インテリア計画・インテリアエレメント生産・インテリア装備等で学習するインテリアデザインの基本的知識を基に, JW-CADソフトを使用し, その特性や操作を学習して, 自ら条件を設定してデザインした「理想の住宅」の設計および, インテリアコーディネート表現技術を習得する。	行動観察 レポート 自己評価 作品完成度
	12			
	1			
三 学 期	2			
	3			

教科	工業	科目名	インテリア製図	単位数	3
学科	インテリア科	学年	3 学年	履修区分	必須
使用教科書	インテリア製図 文部科学省				
副教材など					

1. 科目の目的

1・2学年で習得した知識及び技術を総合させ、木造住宅の設計を行う。課題内容からその条件に即した木造住宅を行うため、法規・構造・計画を十分にした上でエスキスを行い、プランの定義を理解し、計画的かつ正確に各図面を描く能力・センスを養う。

2. 授業の内容と進め方

前期は木造住宅の平面図及び矩計図までの模写を行い、手順・製図法から仕上げや構造にいたるまで図面から読み取る力を習得させる。後期は与えられた条件内での木造住宅の設計を行い、自らで考え1から図面を立ち上げかつプレゼンテーションする力を習得させる。

3. 学習する上での留意点

インテリア・住宅の総合的な知識（寸法・構造・法規等）が問われるため、個々の進行状況を把握し個別指導を徹底することでただ模写するだけの図面にならぬよう留意する。また、「インテリア計画」「インテリア装備」などの他教科との連携を計る。

4. 課題等について

- ・提示した課題を提出期限までに提出させる。
- ・授業で不足する時間は自主学習とする。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	木造住宅の設計について関心をもち、意欲的に学習活動を行い、期限内に課題を提出できるか。
思考・判断・表現	設計条件(法規・計画・構造)を十分に検討しているか。
技能	線の細太の区別をつけ、メリハリのある線を描き、かつ寸法・スケールが正しく表現されているか
知識・理解	製図及びエスキス段階において設計条件(法規・計画・構造)を十分に理解し、自分の考えを効果的に表現できているかを評価します。

6. 評価の方法

- 1) 各課題の提出状況及びその内容（設計条件の理解・図面の完成度・丁寧さ）により評価する。
- 2) 出席状況、学習意欲、学習態度、学習に取り組む態度を評価する。

《指導計画》 科目名 インテリア製図

3 学年

3 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	1. 木造住宅模写 1.1平面図兼配置図	与えられた図面の模写を行うことにより、木造住宅の図面の表現方法、構造、スケールの習得をおこなう。	行動観察
	5	1.2断面図	居室や敷地内に建物がどの位置にあるかを示し、かつ柱の位置や窓、家具にいたるまでを表現した図面を描くことにより、適切な配置や線の太細の表現法を習得する。	課題提出
	6	1.3立面図(2面)	建築物の縦断面図に正面展開図をかき込んだ図面で、基礎地盤面・軒高・屋根勾配・床高など高さの概念を習得する。	行動観察
	7	1.4矩計図	窓の形状や床下・外壁・屋根などの、建築物外面の鉛直面への投影図で、外面の仕上げ材料の表現を習得する。	
二 学 期	9	2. 卒業設計 エスキス	窓の形状や床下・外壁・屋根などの、建築物外面の鉛直面への投影図で、外面の仕上げ材料の表現を習得する。	課題提出
	10	平面図兼配置図	設計の段階でエスキスは重要な役割を持っておりその重要性を理解させ、決められた設計条件の中で自分の意図を最大限に表現し、プレゼンテーションする力を養う。	行動観察
	11	断面図	エスキスから図面を起こし与えられた敷地上に採光・駐車スペース・アプローチ方法を考慮しながら、丁寧に仕上げる力を養う。	課題提出
	12	立面図(2面)	平面から立体的に考え、主要構造部分の思考力・表現力を養う。	行動観察
三 学 期	1	2.5 矩計図	指示された範囲の矩計図（構造上標準となる部分の縦断面図）の室内外の仕上げを自ら考え描く。	行動観察
	2	室内・外観パース		課題提出
	3			

教科	工業	科目名	インテリア装備	単位数	2
学科	インテリア	学年	3 学年	履修区分	必修
使用教科書	インテリア装備(文部科学省)				
副教材など					

1. 科目の目的

- 1) インテリアを構成する各部位やエレメントの材料、構造、施工にかかわる基礎的な知識と技術を総合的に習得させ、実際に活用する能力と態度の育成を目的とする。
- 2) 具体的目標として、高等学校で学ぶ専門科目の分野に関する基礎知識を学び、国家試験・検定試験等の資格試験のための基礎学力の確立を目指す。関連する資格の主なものとして下記に示す。
 - (1) インテリアコーディネーター
 - (2) 住福祉環境コーディネーター2・3級
 - (3) CAD検定
 - (4) インテリア設計士2級
 - (5) インテリアコーディネーター

2. 授業の内容と進め方

講義のみの授業にならないように、教科書を理解させるだけでなく、インテリア計画・実習・製図科目等と連携をとりながら、現場見学も取り入れ各種資格試験の取得にもつながる知識を習得させる。

3. 学習する上での留意点

インテリア装備の基礎的な知識だけでなく、装備を通してインテリア計画・設計製図・生産技術等ができるように関連づける。個々の理解度把握し個別指導を徹底する。

4. 課題等について

- 1) 問題プリントを配布、解答し、提出する。
- 2) 各単元において、小テストを行い、そこまでの内容理解度のチェックをする。理解がされていれば合格とし、理解不足の場合は補習、再テストを受け合格するまで繰り返す。提示した課題を提出期限までに提出させる。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	インテリア装備の基礎的・基本的な内容を理解し、意欲的に授業に参加し、質問・発表等をする態度を身に付ける。
思考・判断・表現	インテリア装備の基礎的・基本的な知識で具体的な事象に対して深く考えるとともに、各構造・材料について内容を適切に理解できる能力を身に付ける。
技能	インテリア装備の基礎的・基本的知識を活用し、設計製図、模型製作等実践的に具現化できる能力を身に付ける。
知識・理解	インテリア装備の基礎的・基本的学習内容を理解し、各種構造・各種材料・各種仕上げ等に関する基礎・基本的な知識と技術を身に付け、インテリアの内容や、建築の内容を理解し活用・表現できるようにする。

6. 評価の方法

評価については、定期考査・校内実力テストでの成績や課題の提出状況を平常点として加えて、総合的に判断する。

- 1) 定期考査(授業計画にある通り1年間に4回実施される)。定期考査の結果をもとに学習の内容の理解度、定着度を理解する。
- 2) 校内実力テスト(定期考査を補完する意味で、長期休業明けに校内実力テストが行われる)
- 3) 授業への取り組み(発表・学習活動への意欲・出席状況)。学習意欲、学習態度、学習に取り組む姿勢を評価する。
- 4) 授業時のノートを提出させ整理の状況を評価する。
- 5) 現場見学のレポートを提出させ学習内容を評価する。

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	第5章 構造の力学 第1節 構造物と力 第1 構造物 第2 荷重 第3 反力	<p>構造物の設計においては、外から作用する力に対して構造物が安全であり、経済性の高いものであることが必要である。そのためには、構造物の構成や形状、これらに作用する力の性状、さらに使用材料の性質などを考え合わせて、合理的に設計することが必要である。</p> <p>この章では、実際の構造物を合理的に設計するうえで必要な基礎的な事柄について学ぶ。</p> <p>現在の住宅における設備機器の重要性を理解しインテリア装備を計画し施工するために必要となる給排水・衛生設備、空気調和設備及びその他の設備についての取扱方法や基礎的な知識と技術を習得させる。</p>	<p>行動観察 模擬テスト</p> <p>中間考査 課題提出</p> <p>期末考査 ノート検査</p>
	5	第4 部材の応力 第2節 部材の断面積 第1 材料の性質 第2 断面の性質 学習課題		
	6	第6章 建築設備 第1節 建築設備の概要		
	7	第1 建築設備とエネルギー		
		第2 建築設備の種類		
		第3 建築設備と建築物との関連		
	二 学 期	9		
10		第2節 各種の設備と設備機器 第1 給排水・衛生設備		
11		第2 空気調和設備		
		第3 電気設備		
12		第4 その他の設備 学習課題 第7章 関連法規 第1節 安全な居住環境 第2節 建築基準法		
三 学 期	1	第1 法の構成と種類	<p>生活空間の安全の確保や、快適さの保持を目的として定めた規定が、インテリアに関する法規の主要なものであることを理解し、建築基準法や消防法については、特に知識を深めさせる。</p>	<p>学年末考査 ノート検査</p>
	2	第2 用語の定義 第3 一般計画に関する規定 第4 空間環境・衛生に関する規定 第5 防火に関する規定 ま と め		
	3			

教科	工業	科目名	デザイン史	単位数	2
学科	インテリア科	学年	3 学年	履修区分	選択
使用教科書	デザイン史（東京電機大学出版局）				
副教材など					

1. 科目の目的

人が歴史の中で創造してきた「もの」のデザインは、歴史的・宗教的・経済的背景から風土、地域性が深く影響している。造形とデザインについての歴史的理解を深め、インテリアデザインに活用できかつ鑑賞できる能力と態度を育てる。

2. 授業の内容と進め方

我が国の文化から発生した日本デザインを中心に時系列にその時代の背景を踏まえ代表的なデザインを取り上げながら、またそれぞれのデザインは相互に深く関わっているため、学んだ内容をフィードバックしながら授業を進めていく。

3. 学習する上での留意点

造形素材の表現や特性の理解を深めるために、プリント、写真やビデオの視覚的教材や必要に応じて美術館や博物館の見学を取り入れていく。

4. 課題等について

1) 各単元において小テストを行い、そこまでの内容理解度のチェックをし、理解が不足していれば補習・再テストを繰り返す。

2) レポートおよび課題プリント

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	デザインに関する発生や歴史的背景について関心をもち、主体的に学習に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけているか。
思考・判断・表現	時代や地域によって変化するデザインを基本的な知識を基に、適切に判断し表現する創造的な能力を身につけているか。
技能	各様式の特徴を要求に応じて取り入れ、提案する技術を身につけているか。
知識・理解	デザイン史に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、デザインを適切に評価することができるか。

6. 評価の方法

評価については、定期考査・校内実力テストでの成績や課題の提出状況を平常点として加え、総合的に判断する。

1) 定期考査および実力テスト

2) 授業への取り組み（出席状況、発表・学習活動への意欲、ノートの内容）

3) 課題への取り組み

《指導計画》 科目名 デザイン史

3 学年

2 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	1. インテリアデザインの発想 1.1 デザイン史を学ぶ理由 1.2 デザイン史の対象と領域 1.3 造形の様式 1.4 地域と時代	人間が歴史の中で作り出してきた営みを振り返りその時代の生活や精神を読み取り、デザイン史を学ぶ意味を理解する。	行動観察 質疑応答
	5	2. 日本 2.1 原始 2.2 古代 飛鳥時代	大陸から伝来した生活文化と仏教文化を日本の造形芸術にどのように吸収されていったかを学習し神社仏閣がどのように形成されたかを学習する。	小テスト 中間考査
	6	奈良時代 平安時代 2.3 中世 鎌倉時代 室町時代	貴族文化から民衆文化への時代変化および、次の和風様式「書院造」が誕生する過程を生活・宗教・造形・工芸等多方面から学習する。	行動観察 質疑応答 小テスト 期末考査
	7	2.4 近世 桃山時代	日本人の自然観に基づく「茶室」「数奇屋造」、室内装飾・工芸品の意匠、町人の生活文化を学び理解する。	行動観察 質疑応答 小テスト
	9			
	10	江戸時代	豪華絢爛な内装・建築から、「質素儉約」の時代に突入する。質素な見た目の中にも素材や意匠をこらした室内装飾や工芸品の意匠について学習する。	中間考査 行動観察 質疑応答 小テスト
	11			期末考査
二 学 期	12	2.6 近代 明治時代	生活の洋風化、産業技術の導入による建築・工芸・デザインの発展や社会の変化について学び理解する。	行動観察 質疑応答 小テスト
	1	大正・昭和時代	明治時代の近代化の基盤の上に、さらに欧米のデザイン運動の影響を受けた工業デザインが発達した。ここでは産業工芸について学習する	行動観察 質疑応答
	2			期末考査
3				

教科	工業	科目名	課題研究	単位数	3
学科	インテリア	学年	3 学年	履修区分	必修
使用教科書					
副教材など					

1. 科目の目的

工業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育成することを目的とします。

2. 授業の内容と進め方

生徒自らが、作品製作、調査・研究、実験、現場実習、資格取得等の分野に関する研究テーマを設定し、計画を立て、製作や調査・研究などを行い、製作品の完成、結果の整理及び発表を通して、研究を深めるとともに専門性の深化を図ります。

3. 学習する上での留意点

- 1) 生徒の興味・関心・進路希望に応じて個人又は、グループで適切な研究テーマを設定します。
- 2) 学校の施設・設備、費用、完成までの工程・期間、生徒自らの能力・適正などを考慮します。
- 3) 研究成果を整理し、分かりやすく発表できるように研究を深めます。
- 4) 作品製作において刃物や木工機械を使用する場合は、特に安全教育・環境整備に留意します。
- 5) 学校内および、校外に研究成果の発表展示会を設定し、保護者や地域住民にも参観できるように配慮します。

4. 課題等について

実施した日は毎日、個人日誌に作業工程の内容、感想、次回の準備、自己評価を記入して提出します。

授業時間で不足する分は課題とし、各自の自主学習・作業によって補い、製作品は年間計画の範囲で完成させるようにします。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	工業に関連する基本的な技術や技能に興味・関心を持ち、課題に意欲的に取り組みとともに、実際に活用しようとする創造的、実践的な態度を身につけているかを評価します。
思考・判断・表現	各研究内容について、理論・原理、および工程・操作方法等が適正であるかを判断する能力、また、直面する諸問題について、その解決を目指して思考を深め、自ら判断できる力と創意工夫する能力を身につけているか。
技能	工業に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、デザイン・設計した製品の使用目的に適した材料を選択し、合理的な手順や工程を計画し、各工程に適切な機械や器具を安全や環境に配慮し、正しく使って作業する技術を身につけているか、
知識・理解	工業に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、各研究内容についての知識や関連知識を習得し、工業技術を生活向上に実現させようとする目的を理解しているか。また、その成果を的確に作品に表現しているか。および、研究発表会での表現力を評価します。

6. 評価の方法

評価の観点に基づき、出席状況、個人日誌、課題研究報告書、研究成果の発表態度・内容、製作品はその完成度および、自己評価を加味して総合的に判断し、評価します。

《指導計画》 科目名 課題研究

3 学年

3 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	希望テーマの調査 グループ編成 テーマ調節・設定 年間研究計画の作成 製作工程表の製作	オリエンテーション 第1 テーマ 「木製家具製作」 エレメント材料, 家具の構造, 塗装等の基礎知識を基に, 設定したインテリアに適合する, 合理的なオリジナル家具をデザイン・設計し, 製作工程表を作成し, 安全に留意して加工を進め, 機能性, 安全性, 耐久性, 審美性, 経済性を備えた完成度の高い作品を仕上げる, ものづくりの精神および技術と態度を習得する。	助言・行動観察 日誌・自己評価
	5	情報収集・デザイン・設計 材料調達・機材調達		助言・行動観察 日誌・自己評価
	6	調査・研究・製作		
	7		第2 テーマ 「インテリア模型製作」 安全で快適なインテリアデザイン計画やインテリア様式の基礎を理解し, 自ら条件を設定して, 計画意図に基づいて, 設計し, 図面どおりのスケール1/12のインテリア模型を製作する。 色彩計画, 材質感に留意し, 生活場面を忠実に表現する技術を習得する。	助言・行動観察 日誌・自己評価
	9	グループ内の中間発表会		
	10	調整・研究・製作	第3 テーマ 「福祉玩具の研究と製作」 インテリア計画, ユニバーサルデザイン, バリアフリーデザイン等の基礎知識を基に, 作業療法に使用するリハビリ用具や, 玩具を研究し, デザインして製作するものづくりの精神および技術と態度を育成する。	助言・行動観察 日誌・自己評価
	11		第4 テーマ 「七宝焼き」 釉薬の種類(透明・半透明・不透明)と多彩な色および焼成炉の温度の違いの組合せによる, 色々な技法および技術を習得する。	助言・行動観察 日誌・自己評価
二 学 期	12	研究成果の整理及び発表準備 研究成果報告書の提出	第5 テーマ 「アイデア技術」 インテリアエレメントにおいて, 改良・改善, あるいはオリジナルのデザイン・機能性などを研究し, モデル製品を製作する技術を習得する。	助言・行動観察 日誌・自己評価
	1	発表原稿の作成と提出		
	2	研究成果の発表会 全体での発表		
三 学 期	3			

教科	工業	科目名	住環境デザイン	単位数	2
学科	インテリア科	学年	3 学年	履修区分	選択
使用教科書	色彩検定 公式テキスト2級(発行:株式会社A・F・T企画)				
副教材など	新配色カード(日本色研事業株式会社)				

1. 科目の目的

- ・社会におけるデザイン技術の意義や役割を理解、デザイン技術に関する知識や技術の習得、デザインおよび色彩を活用する能力と態度の育成を目的とします。
 - ・住宅や社会において、安全で安心できる「福祉住環境デザイン」に関する知識や技術の習得、福祉住環境デザインおよび整備を活用する能力と態度の育成を目的とします。
 - ・具体的目標として、高学年で学ぶ専門科目の分野に発展する基礎知識を学び、検定試験等の資格試験のための基礎学力の確立を目指します。関連する資格の主なものを下記に示します。
- 1) カラーコーディネーター検定試験2級(東京商工会議所)
 - 2) 福祉住環境コーディネーター検定(東京商工会議所・施工商工会議所)
 - 3) インテリアコーディネータ(インテリア産業協会)

2. 授業の内容と進め方

- ・本校では、講義のみの授業にならないように、教科書を理解させるだけでなく、色彩と配色の実技を取り入れて、各種資格試験の取得にもつながる知識を習得しています。また、少子高齢社会での福祉住環境デザイン、整備の実技や知識を習得しています。

3. 学習する上での留意点

- ・少子高齢社会の現状と課題、福祉住環境デザイン、福祉用具、安全・快適な住まいの整備、安心できる住生活とまちづくりを身近な生活と係わり持たせながら学習する。それらの基礎的・基本的な知識や技術を、インテリアコーディネータの資格取得を目指して確実に習得できるようにします。また、色彩とデザインを色彩検定の資格取得を目指して確実に習得できるようにします。
- ・色の持つ様々な働き、基本的用語や概念、日常使われている基本的な色名やその由来、光とは何か、光と様々な色彩現象、混色や色彩心理、色彩調和、ファッション、インテリア、環境を身近な生活と関わりを持たせながら学習する。

4. 課題等について

- ・色彩検定や福祉住環境コーディネーター検定の時期には朝補習を実施して、課題プリントや小テストを行い、そこまでの内容理解度のチェックをします。
- ・理解が不足していれば補習・再テストを繰り返します。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	身近な空間・地域コミュニティ・まちづくりを含んだ福祉住環境整備や色のコーディネートに関心をもち、進んでその福祉住環境整備や色の働きや効果について調べ、得た情報について自分の考えを持ち、伝え合おうとしたか。
思考・判断・表現	福祉住環境デザイン、福祉用具、快適な住まいの整備、安心できる住生活とまちづくり、色彩(色の本質・体系、色の見え方・感じ方、色の混色、配色)、ファッション、インテリア、環境のコーディネーション等の情報の基本的な知識や技術を活用し、思考・判断し、具体的な事象に対して深く考えるところにも適切に判断しているか。
技能	福祉住環境デザイン、福祉用具、快適な住まいの整備、安心できる住生活とまちづくり、色彩の基礎知識、ファッション、インテリア、環境コーディネーション等の基礎的・基本的な技術を、新たな視点から応用発展的に捉え、実際に活用する能力と実践的な態度をもち、デザインや配色として具現化する能力を身につけているか。
知識・理解	福祉住環境デザイン、福祉用具、快適な住まいの整備、安心できる住生活とまちづくり、色彩の基礎知識、ファッション、インテリア、環境コーディネーション等に関する基礎・基本的な知識と技術を身につけ、デザインや配色の意義や役割を理解し活用し、創意工夫する能力を身につけているか。

6. 評価の方法

評価については、定期考査・校内実力テストでの成績や課題の提出状況を平常点として加えて、総合的に判断する。

- 1) 定期考査(1年間に4回実施)の結果により、学習内容の理解度及び定着度を評価する。
- 2) 校内実力テスト(定期考査を補完する意味で、長期休業明けに校内実力テストが行われる)
- 3) 「授業中の学習態度、課題の提出状況、授業時のノート整理により、学習内容への関心・意欲を評価する。

《指導計画》 科目名 住環境デザイン

3 学年

2 単位

学期	月	学習内容 (単元・考查等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	3.バリアフリーとユニバーサルデザイン 3.2 生活を支えるさまざまな用具	高齢者や障害者の動作の自立を促す、用具の知識と有効な使用方法を学習する。	行動観察 質疑応答 課題
	5	4. 安全・快適な住まい 4.1 安全・快適な住まいの整備	高齢者や障害者を対象とした、より安全・安心で自立した生活を送るための、住環境整備の方法を学習する。	ノート 中間考查
	6	5. 安心できる住環境とまちづくり 5.1 ライフスタイルの多様化と住まい	時代と共に変化する家族形態や暮らし方の変化をふまえ、高齢期の住まい方について学ぶ。	行動観察 質疑応答 課題
	7	5.2 安心できる住生活支援 5.2 安心して暮らせるまちづくり	住環境整備に関する施策や法律、それらに基づく主な制度や設計指針などについて学習する。 バリアフリー・ユニバーサルデザインを満たすまちづくりを行うための基本的なしくみを学習する。	ノート 期末考查 行動観察 質疑応答 課題
二 学 期	9	6. 地域で取り組む福祉のまちづくり コレクティブハウジング	実例を基に各福祉施設のハードからソフトの構築を学ぶ。	ノート 中間考查
	10	小規模多機能ホーム		行動観察 質疑応答 課題
	11	小規模多機能型居宅介護、デイサービス、グループホーム		ノート 期末考查
	12	7.福祉施設の設計 設計条件(法規、間取り、大きさなど)の確認 エスキス	学習内容を基に、福祉施設の設計を行う。	課題
三 学 期	1	基本設計 平面図、立面図、断面図		学年末考查
	2			
	3			